

松浦鉄道沿線地域公共交通活性化・再生総合事業

事業期間
20～22年度

公共交通機関は、安全・安心な地域の住民の移動手段として、人と環境に優しく、地域の交流人口を増加させ、地域の活性化に寄与するものであるため、積極的に利用促進を推進することにより、利用者の減少に歯止めをかけ、ひいては利用しやすく市民に親しまれる公共交通とすることを目標とする。

【松浦鉄道沿線地域公共交通活性化協議会】

佐世保市、伊万里市、平戸市、松浦市、有田町、江迎町、鹿町町、佐々町、住民代表、松浦鉄道、西肥自動車、佐世保旅客船協会、JR九州、国(九州運輸局・長崎支局、オブ)、県(長崎県・佐賀県、オブ)

たびら平戸口駅:
訪問証明発行
トレインアンド
サイクル

佐々駅:パークア
ンドライド

⑤たびら平戸口(本
州最西端)訪問証明
書の発行(399千円)

観光快速列車運行
区間

JR乗り入れ区間

JRハウステンボス駅

事業の概要(20年度)

※数字は事業費

①マイレールフォト&絵画 コンテスト (297千円)

マイレール意識
の向上の一環と
して実施。



②イベント車両の導入 ーラッピング列車(4,099千円) 沿線自治体の特産物や観光地を “明るく楽しい”イラストにしたラッ ピング列車「ハッピートレイン」を導入



③JR九州への乗入(実証運行)(3,832千円) ④観光快速列車の運行(621千円)

H21.3.14より運行。ハウ
ステンボス発10:41/佐
世保駅着11:01はJRへ
乗り入れ、佐世保駅発
11:08/たびら平戸口駅
着12:12は観光快速列
車として運行。沿線地
域の名所等の観光案
内を車内放送で実施。



※③、④は一体で運行

⑥トレイン&サイクルの 設置(1,517千円)

H21.3.14から電動自転車6台
のレンタルを開始(たびら平
戸口駅)



⑦利用促進広報(620千円)

松浦鉄道に愛着を
持って頂く事を狙い、
新型車両マスコット
キャラクター「マック
ス君」の着ぐるみを
作成、各種イベント
で使用。



⑧パークアンドライド 用駐車場利用促進 (11,804千円)

H21.3.15から佐々駅の
駐車場の利用を開始。



導入 への プロセス

17年度に発足した「松浦鉄道再生支援協議会」が法定協議会の前身組織。また18年度には官民一体となって支援する「松浦鉄道再生計画」を策定しており、総合連携計画はこれが基礎。

パーク＆ライドの推進は大きな経費がかかるため「再生計画」では滞っていたが、国の支援の大きい「総合連携計画」にシフトすることで、事業の推進が可能となった。

「③JR九州への乗り入れ」については、JRダイヤ組入れ箇所、経費と安全対策からみた条件設定等、JR九州と松浦鉄道の間で綿密な協議が重ねられた。そのため平成20年1月～10月上旬と長期にわたり難航した。

マイルール意識の高揚

「①マイルールフォト&絵画コンテスト」は、昨年度と比較して、作品数は121作品から131作品に増加、応募学校数も28校から50校と増加したことから、**松浦鉄道への愛着を浸透させる効果はあがってきている。**

「⑦利用促進広報(着ぐるみ)」については、10月にデビュー、3月までに地域イベントへの参加や実際に列車に乗車してPR。**集客効果(特に親子連れ)が非常に大きい**ことから、今後もマックス君を通した松浦鉄道のPRにつなげていく。

利便性の向上(乗り継ぎ)

「③JR九州への乗り入れ(実証運行)」については、1日平均22人。欠損を出さないためには本来は24人/日の利用が必要。

「④観光快速列車の運行」の3月の利用状況は、1日平均15人。松浦鉄道20年度平均の1便当たり利用客は54.8人となることから、15人という利用客は少ないが、通勤通学が中心である路線の特性を考慮すれば、極端に少ない利用とも言えない。

21年度は、ポスター、パンフレット等によるPRのほか、**旅行代理店等にも積極的にPR**を行うと共に、**運行時間帯については**現行ダイヤでは厳しいため、**JR九州と協議を進める**必要がある。

潜在需要の掘り起こし

⑧パーク＆ライド用駐車場については、H21.3.15から佐々駅の駐車場の利用を開始。46台の契約可能台数に対し、**3月中に22台の申し込みあり**。駐車場は通勤定期購入者専用(月額1,000円)であることから、**契約者が増加すれば運賃収入に直接つながる**。今後は、新聞折込みチラシを配布したり、MR車輛や各駅掲示板への掲出等のPRに努める。

観光利用の促進

「②イベント車両の導入(ラッピング車両)」については、親子連れ利用客から運行時間の**問合せが多く、反響が大きい**。また車両にはDVDが内蔵されており、アニメ放映をサービスとして、3月中に4回、保育園や子ども会等の貸切遠足列車として運行しており、**契約促進に大きく寄与**。

「⑤たびら平戸口訪問証明書」については、H21.3.14よりリニューアル。3月の半月で約200枚の売り上げ(旧様式では1月～3月中旬で462枚)。**平戸観光を意識した新様式に変更**することによって、新聞記事でも紹介される等、観光PRにも貢献。

「⑥トレイン&サイクルの設置」については、3月中は5台の利用にとどまっている。21年度は売上げ及び利用増につながるよう、チラシ配布や旅行代理店への呼びかけを通して、PRしていく。

初年度 の効果

次年度 以降

多くの施策が3月実施のため、効果・課題が出るのは21年度以降。
事業の効果的な浸透により利用促進を図っていく

20年度利用者数は、前年度2%減の2,960千人となり、想定数(2,958千人)を若干上回った。松浦鉄道は通勤通学が中心であり、少子化や経済状況に大きく左右されるところであるが、**観光目的の利用増に努める**ことで、利用者の減少に歯止めをかけ、地域活性化に貢献していく。

③JR九州への乗り入れ、④観光快速列車については、平戸観光の活性化につながるから特に力を入れてきたが、**20年度の運行開始が年度末となったため低い利用状況**であった。今後は、運転時間が分かるような時刻表の見やすさの工夫、沿線地域の病院やイベントホール等への時刻表の掲出、報道機関や交通関係雑誌等でのPR等、**この事業をどう浸透させるかが地域活性化の鍵**と認識している。